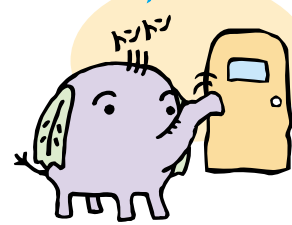


ごめんください



意識改革をめざした奉仕活動

都立秋留台高校

11月4日(金)秋留台高校生活指導部久保先生を訪問し活動状況をお聞きしました。同校では生徒の指導目標を「ルールを守る意識向上(規範意識の醸成)」とし、そのための活動として、ボランティア、社会奉仕などを幅広く展開しています。そのいくつかの事例を紹介します。

●登校路清掃

約10年前から毎月1回以上は実施しており、全生徒が卒業までに1回以上は参加するという奉仕活動です。

11月9日午後3時半から1時間半、2年6組が担当、担任の坂本・吉見両先生と生徒12名、さらにPTAから安藤会長以下3名の役員が参加、それぞれごみ袋とごみバサミを手に、手押し運搬車とともに校門を出発、東秋留駅までの登校路のごみ拾いをしました。帰宅する生徒が追い越して



いく中で薄暗くなるまで作業する生徒たち、側面から盛り立てるPTAの皆さんをみて、この活動が定着していると感じました。

●地域奉仕活動

平成19年度から都立高校は「奉仕体験活動」が必修科(1単位:35時間)となるそうです。秋留台高校はこれの研究校(モデル校)として本年度から1年生全員が奉仕体験活動に参加することとし、「自分が社会に貢献している意識」や「人を思いやる心を育むこと」をねらいとして取り組んでいます。

[平井川清掃]

7月23日(土)、西多摩建設事務所と協力して、平井川の新開橋下流の河川清掃に1年生30名が先生方5名とともに参加、ペットボトル、ビニール袋などを回収しました。まむしや怪我に注意しながら川の中を歩くなど慣れない作業ながら無事終了しました。



[あきる野市産業祭ボランティア]

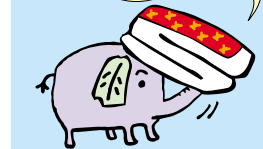
11月12日(土)8名、13日(日)7名が産業祭会場で奉仕活動に参加しました。

真っ赤なジャージの生徒たちは、駐輪場の整理、苗木・植木の無料配布、会場案内配布、やきいも販売などのコーナーを受け持ち、一生懸命働きました。

参加した生徒たちは「きつい仕事だったが、がんばれた」「みなさんに喜ばれて楽しかった」などといっていました。はじめての奉仕活動は貴重な体験となったことでしょう。(O)



粗大ごみで一番申込みが多いのはBとんだよ



わたしのお店のエコ自慢

寝具の石川綿店

(あきる野市山田)

粗大ごみの代表格は布団。布団は処理にも手間がかかり、処理場でそのまま焼却できず、裁断機で切ってから焼却しています。

ごみはまだまだ減らせません。資源を無駄にせず、わたの打ち直し工場を活用して、使い捨ての風潮を改めるのです。

天然素材のめん綿布団は捨てずに打ち直しを3~5年ごとに行えば、数十年にわたり使用できますので、

長い目でみれば安上がりです。当店では戦前から布団のリサイクルに取り組み、年間数千枚の布団を甦らせています。

布団を買い替える前に、まだリサイクル可能か確認してください。当店では古綿の無料診断をしています。羊毛や化せん綿は打ち直しできません。

国際的にも日本の「モットイナイ」という昔からの精神が取り上げられています。太陽の恵みを受け、日本の風土に合い、心地よい寝心地のめん綿布団を見直し、ごみを出さないようにしたら良いと思います。

*近くの布団屋さんでも打ち直ししているところがあります。確かめてください。

このドラムが回転して綿を細かくしていきます。



編集後記

今回給食の残菜のことを皆で考えていく中、たくさん問題が見えてきた。「こんなお昼を子供たちに食べてほしい」と思う食事は皆一致しているのに…。

地元で取れた安心安全な食材、作ってくださる方の顔が見える食事、野菜作り、食事作りを通し

て子供たちも、食べること、命を育むこと(生きること)を学ぶ。食事が目の前に並ぶまでのすべての物事が感謝で満たされている。どれもこれも生きる上であたり前のことである。

少しでも解決の道はと模索してみたが、どこも壁だらけで行き詰まってしまった。(Y.M)

ごみ情報誌

発行・編集 あきる野ごみ会議

へらすぞう

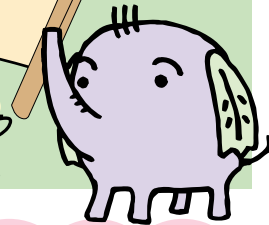
第4号 2005年12月



げんくん

あきる野ごみ会議は、市民・事業者・市の3者が協力して活動している団体です。

へらすゾウ



生ごみダンボール方式をやってみよう!

ごみ出しから生ごみがなくなり、市の指定袋はミニ袋でじゅうぶん
簡単・手軽・・・毎日生ごみをダンボールに入れてかきませるだけ

毎日台所から出る生ごみを減らすための工夫をしていますか。

燃やせるごみの中で生ごみは多くの割合を占めています。私の家では、意識的に減量・堆肥化することで、10分の1の量に減らすことができました。

簡単で手軽にできる方法として、ダンボール箱を使っての生ごみ堆肥化があります。これには、札幌方式と米ぬか方式の2つがあります。(K.O)

<生ごみ堆肥化—私の大事な役目です>

私の家では、ダンボール方式で生ごみの堆肥化を始めた。過去にEM菌による生ごみ処理で挫折しているの、駄目元で始めてみたが10か月ほどになる。生ごみがどんどん消えていき、臭いも出ないことに驚いている。

この方式は、生ごみの水分がダンボール箱から蒸発して水分調整されます。しかし、始めた頃はコンテナに入れて通気性を悪くしたせいでダンボールが腐ってしまった。また、我が家は生ごみの量が多く箱を大きく深めにしたため、水分を含むと奥様には下の方までかき混ぜきれず、虫が発生してしまったなどという失敗も繰り返している。

この方式は、生ごみを入れ、中をかき混ぜるだけの簡単な作業であり、普段は奥様に任せているが、全体をよくかき混ぜることがコツのようで、週に1回は私の出番となる。なお、車庫の中で処理しているの、これから寒くなり菌が働いてくれるか心配している。

興味のある方は、気軽に始めても大丈夫だと思う。失敗しても嫌になって止めても人に迷惑はかけないのだから。(M.I)



- 1 札幌方式……園芸店等で販売しているピートモス(15リットル)、もみ殻くん炭(10リットル)をダンボール箱に入れ、生ごみを投入。入れる度または1日1回かきませます。
- 2 米ぬか方式……米ぬか3kg、腐葉土5kgをダンボール箱に入れ、生ごみを投入するときに米ぬかをまぶす。入れる度または1日1回かきませます。

ごみ会議「ダンボールプロジェクト」始動!

11月12日(土)リサイクルフェアの会場(都立秋留台公園)で、ダンボール方式の紹介、実演を行いました。当日は、「生ごみ減らそう秋流ネットワーク」のみなさんと一しょにピラを配りましたが、多くの方が立ち寄り、話を聞いてくれました。

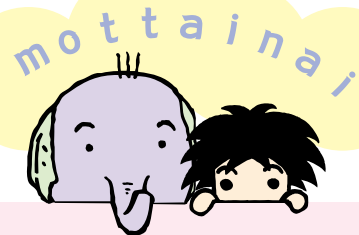
11名の方がすぐにやってみると、もみ殻くん炭とピートモスを購入しました。今回の取り組みで、すでに自分で他の方法で生ごみ堆肥化に取り組んでいた、関心をもっている方が多いこともわかりました。ダンボール方式をもっと広めていきたいと考えています。

生ごみ減量講習会なども予定しています。

(K.O) リサイクルフェア 11月12日 秋留台公園



もったいない!!



あきる野発「もったいない運動」を始めよう!

私たち「ごみ会議」は、このあきる野から「もったいない運動」を始めようと思っています。

昨年ノーベル平和賞を受賞されたケニア出身の「ワンガリ・マータイ」さんが今年来日した際、日本語の「もったいない」という言葉を知って感銘を受け、全世界に「MOTTAINAI」が広がりつつあります。「私になにができるの?」と聞かれたときマータイさんは、いつも「人間一人ひとりに変化を起こす力があるのよ!」と答えています。「もったいない」は「3つのR(リデュース=断る・リユース=再利用・リサイクル=再利用)」につながり、将来の世代へ健康的できれいな世界を残していくことに直結するのです。

また、マータイさんは私たちや子どもの望む生活を実現するために、環境を保護し復旧活動に参加してほしい、他人がどうにかしてくれるのを待ってはいけません、と言っています。私は、マータイさんのこの言葉に非常に感動し、あきる野にもったいない運動を展開したいと考えています。特に、この地域ならではの「もったいない」を募集し、あきる野市内に浸透させてごみの減量を図りたいと思います。そして、い

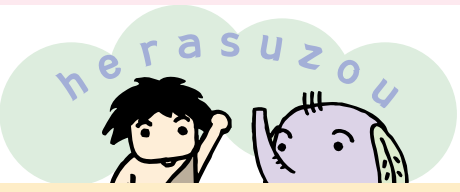
つかはマータイさんにお会いできることを夢見て、活動していこうと思っています。(H.M)

***「もったいない」とは**(マガジンハウス発行『もったいない』より)
「もったい」とは、物の本体を意味する。「勿体=物体」のこと。「ない(無い)」はそれを否定したもので、本来は、物の本体を失うことを指す言葉。また、「もったい」には重々しく尊大なさまという意味もあり、それを「無し」にすることから、畏れ多い、かたじけない、むやみに費やすのが惜しいという意味で使われるようになった。しかし、なによりも「もったいない」という言葉の奥には「努力」や「苦勞」、「時間」や「歴史」など、せっかく積み重ねてきたことを「失ってしまう」「無にしてしまう」ことへの無念と哀しみがあるのです。



ワンガリ・マータイ

1940年4月生まれ
ケニア出身の女性環境保護活動家
2004年12月10日「持続可能な開発、民主主義と平和への貢献」のため、環境分野の活動家として史上初のノーベル平和賞を受賞(アフリカ人女性としても史上初)。



レジ袋へらすぞう運動

レジ袋が燃やせないごみの中に占める割合はそれほど大きくありません。

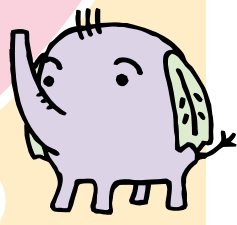
しかし私たちはレジ袋を「使い捨て社会=資源とお金の浪費」の象徴と考え、レジ袋を減らすことでその他の容器包装ごみをはじめとするごみを減らし、私たちの日々の生活や社会のあり方を見直す運動=もったいない!! 運動へつなげていきたいと考えています。

お店にとってもレジ袋を減らすことで生まれたゆとりを、他のサービスに振り向けることができると思います。

そこでまず、私たちは、「レジ袋を辞退しよう」「マイバッグを持参しよう」などの呼びかけを市内のスーパーの店頭で行い、市民のみなさんに訴えていくことにしました。

レジ袋削減PR 実施予定店舗

- あきる野とうきゅう
- アルプス(あきる野店)
- いなげや(あきる野雨間店)
- オザム(秋川店)
- パークSC(二宮店)



ボランティア募集中

私たちと一緒に店頭で立ってくださる方を募集しています。(来年2月頃から実施予定)

連絡先: ごみ会議 佐野 ☎596-3463
又は 市環境課内事務局 ☎558-1842

ある日の学校給食の残菜は



食べ残しはすべてごみになります。



賞味期限内の牛乳も残れば捨てられます。

水分を多量に含んだ残菜は燃やすには多くの燃料(費用)が必要となります。

食べ残しを減らす工夫はないか?

「安全の一人歩き」でまだ食べられるものが捨てられる。この現実にもっと目を向けてもらいたい。学校も家庭も行政も、大人も子供も。(K.F)



1日くらいお弁当の日があってもいいんじゃない? 残った給食をほかに活用できないかな

もったいないなあ

おいしく残さず食べるにはどうすればいいの?

作っても残されたらせつないヨ

食べ残し、残菜を堆肥などに活用することができないか?

平成16年度学校給食残菜(重量比率:%)

給食センター調べ

小学校		中学校	
東秋留小学校	26.6	一の谷小学校	25.5
多西小学校	27.6	前田小学校	29.3
西秋留小学校	24.3	増戸小学校	20.0
屋城小学校	23.5	五日市小学校	19.7
南秋留小学校	24.2	戸倉小学校	17.3
草花小学校	22.0	小宮小学校	13.8
		秋多中学校	17.9
		東中学校	22.7
		西中学校	18.2
		御堂中学校	24.6
		増戸中学校	27.7
		五日市中学校	21.2
全小中学校の合計比率		22.3	

あきる野市立小中学校(小学校12校、中学校6校)の生徒が食べている給食は、市内3か所の給食センターから各学校へ配送されます。各校で給食が終了した後、余った給食や食べ残しは残菜として、再び給食センターへ回収されます。この残菜の重量は当初重量の約2割強に当たり、年間約71トン発生しています(平成16年度)。その後、残菜は「燃やせるごみ」として西秋川衛生組合へ運ばれ焼却されます。(O)



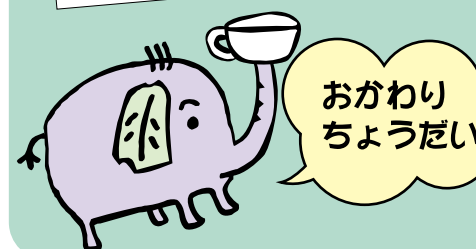
配膳中(草花小学校で)

<あきる野ごみ会議給食プロジェクト委員の感想>

いくつかの学校にお邪魔して子供たちと一緒に給食を食べてみました。給食については、その原点(食育)と現状を学校関係者に話を聞き、又給食を食べている児童・生徒達の意見や感想を聞き理解しようと思っていますが、かなりの時間が必要だと思われます。

給食を作る人、残菜を処理される人たちのご苦勞を見るにつけ、大変な事と思いながら、残菜の有効な利用方法をいかに模索するかが今後の課題です。

戦後60年の今、ひもじい=物が無い時代と、飽食=もったいない時代のこの落差は単に時間の経過だけだと思って良いのだろうかと思感しています。



おがわり ちょうだい